

第2回亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会 議事要旨録

日 時：令和3年8月27日（金） 午前10時00分～正午

場 所：亀岡市役所6階 602・603会議室

出席者：今里佳奈子座長・川勝啓史副座長・大矢寛恵委員・小川顕正委員・
加藤美智恵委員・河原林茂美委員・栗山初美委員・野原通夫委員・
藤本邦雄委員・松井利夫委員・山本隆志委員

欠席者：大野照文委員

関係職員：文化国際課 小塩課長・服部副課長兼係長

財産管理課 野々村課長・石田主幹

歴史文化財課 岩崎課長・八木係長

事務局：政策企画部 浦部長

企画調整課 高木課長・太田係長・關本主任・濱崎主事

傍聴者：4名

議 題：1 開会

2 第1回懇話会の確認・質問等への回答

3 LINEアンケートの結果

4 意見交換

文化資料館の機能について

規模について

立地等について

文化ホールの機能について

規模について

立地等について

5 その他

6 閉会

1 開会

本懇話会は公開とする。

2 第1回懇話会の確認・質問等への回答

資料No.1-1、1-2に基づき説明（文化国際課職員）

3 LINEアンケートの結果

資料No.2-1から4-3及び参考資料に基づき説明（事務局）

A委員

亀岡市公式LINEの登録者数が16,181人で、回答者数が556人等は、事務局として期待していた数字か。

事務局

調査対象が1万人を超えた場合は、最低400人以上から回答を得られれば、ある程度信頼性のある結果になるとされている。500人を超えたので、その基準をクリアしていると考ええる。

4 意見交換

座長

本日は、文化資料館と文化ホールについて、機能、規模、立地等について意見交換を行う。文化資料館について、意見はあるか。

B委員

アンケートの結果を読み、予想よりも自由記述の意見が多く、市民や市外の人からの幅広い意見があり、アンケートの価値はある。

否定する人、必ず建設してほしい人、具体的な計画を書いている人、誤解している人、興味が無い人、様々な人がいる。文化資料館はPR不足で、理解されていない。

将来的には総合文化施設として、文化的な活動のあらゆることが可能になる施設になってほしいと考える。反対意見も多くあるが、誤解して反対している人もいるので、行政としてどう問いかけていき、市民の意見を集約していくことがいいのか、しっかり考えていかないといけない。

また、反対する人の意見も聞きつつ、どのような方向が最も望ましいか考える必要がある。

C委員

アンケートの結果を見ると、1回目のアンケートの質問の7番「文化資料館の建て替えについて、あなたのお考えをお聞かせください」で、70%の人が「財政負担を考えて長期的に考えるべき」と回答している。

2回目のアンケートの質問の3番、「ホール機能を有していた旧亀岡会館は平成27年に閉館しましたが、あなたはどのような影響を受けましたか」で、58%の人は影響

がなかったと回答している。

3回目のアンケートの質問の5番「文化資料館や文化ホールを整備する際の財源調達で適切だと思われるものはどれですか」は、自分が費用を負担したいか負担したくないかともとれる質問だと思うが、自分が負担する「亀岡市が通常の財源を確保する」が22%、自分が負担したくない「亀岡市がクラウドファンディングで企業や個人から寄付を募る」が44%、と回答している。

経験上、このようなアンケートを実施すると、施設を建設してほしい意見が目立つことが多いが、今回は「あまり急がなくていい」「なくてもそれほど影響がない」意見が目立つ。アンケートの結果を押し切って施設を整備することは、本当にいいのか悩むところではある。

A 委員

初めてアンケートを見られた人に、そのような反応があるというのは分かる。

新資料館は、第4次亀岡市総合計画で位置付けられている。前回配布した新資料館構想は、大学の専門の先生方、小中学校の先生、子育てに関わる人、観光協会の人、様々な人に関わってもらい、2年間をかけて皆様の税金を使用し、作成した。前回の会議でもあったが、文化資料館と文化ホールではスタートラインが全然違う。新資料館構想は、知恵を絞ってまとめたものという気持ちを伝えたい。亀岡の歴史・文化を守り伝えて行くことはとても大事なことで、アンケートの結果で判断して良いか分からない。

D 委員

新資料館構想は、たいへんよくできている。アンケートの回答にある「市民の憩い、触れ合いや交流ができる機能が必要」「文化・歴史を知ると同時に、学習できる場所であってほしい」「美術館の機能を備えてほしい」は、新資料館構想と多くの点で一致する。文化財・歴史を見て、触れて、体験できる場所が必要。

亀岡祭の行事は、亀岡市指定無形民俗文化財の第1号であるが、無形の文化財は一般に公開する機会がない。文化資料館で文化財を展示しつつ、お囃子などの体験ができるようにすることが目標である。子どもたちに関心を持ってもらうことは、伝統を受け継ぎ、伝承していくためにも必要である。山鉦を文化資料館に設置し、多くの人が触れて体験してほしい。亀岡の観光PRにも繋がる、発信力のある文化資料館であってほしい。

E 委員

1つだけ文化施設があっても、その目的以外の人が行かない。滋賀県のラ ヌリーナや福井県の恐竜博物館のような、わざわざ県外から3世代で来られる総合的な文化施設があればいいと思う。大阪府高槻市の安満遺跡公園も行ったことがないが、行きたいと思っている。そういう感覚を持てるところが亀岡にあればいいと思う。

財政の負担が増えるのは嫌だと思うが、子どもを持つ親として、財源が整うまで待っている間に、子どもたちは大きくなってしまふ。その間には、学びと遊びが繋がるようなソフト面の充実も必要だと思う。

F 委員

眠っている施設、放置されている施設をどう考えるべきか。文化はタンスの肥やしだと思う。見た目はお金持ちでなくても、立派なタンスの肥やしを持っている人はたくさんいる。一生に何回着るか分からない着物を、代々大事に受け継いでいる。従来は、冠婚葬祭などで活用されていたが、タンスの肥やしを見せる場所がない。タンスの肥やしをどこで保管しておくか、保管場所の整備が必要。保存と活用を考え、もう一度意見をおさらいする必要があると思う。タンスの肥やしは保管しておき、お披露目の時のみ運び出す施設がいいと思う。

最も重要なのは、子どもたちがどれだけ足を運んでいるかで、自発的に行く子どもはいないと思う。私が子どもの時は、学校から出られる喜びだけで、古くカビ臭いものを見たいわけではなかった。文化資料館や美術館の価値は子どもたちに分からない。次世代の子どもたちが活用でき、立ち会った大人がそれを見て学ぶ仕組みを作らないといけない。

C 委員

私も子どもと資料館や博物館へ行く。北海道三笠市の化石の資料館や、函館市の北方民族博物館など、特定のテーマに特化した資料館だと、施設の名前が足を運ぶ時のきっかけとなる。現状の亀岡市文化資料館という名前や、亀岡市に関わる全般について保存や展示がされていると、足は遠くなる。何かしらのテーマを決めた展示をし、名称もテーマが分かるものにすると、興味がわきやすいし、大きな箱物も必要ないと思う。三笠市の化石の資料館や、函館市の北方民族博物館は規模が大きくはなく、特定のテーマに関して多くの展示物がある。

E 委員

亀岡は車社会であり、子ども一人で行ける場所も学区内に限られるため、親と一緒に車で行くことになる。もし市内で整備するなら、大きな駐車場があるところがいい。

出張し、学校や近くの施設に来てくれるとありがたく、親も参加できるとうれしい。

規模は、資料保存用の施設は大きなものを整備した方がいいが、展示用の施設は小さくなくてもいい。

A 委員

前回亀岡市の財政状況の説明を受けて、それを考えずに意見を言っていていいか悩む。新

資料館構想には、子どもたちのことを考えて整備することが盛り込まれている。現在は駐車場にバスが入れず、ロビーも狭いので小学校から来ることが出来ない。その代わりに出前授業で、1年生の国語に関連する「糸紡ぎ体験」や3年生の「昔の道具学習」に、資料館から友の会も協力して、一部の小学校に出かけている。短期間なので10校でもまわるのは大変で、年度末などには資料館で体験出来るようにもしているが、学校や家庭による格差がある。体験学習は子どもたちにとってとても大事なことは、子どもたちの目の輝きからも分かる。

また、文化資料館の大切さが発信できていない。市政においても発信をしていかないと、歴史文化が軽視されていく風潮が加速される。

新資料館構想では単独施設で整備となっているが、複合施設にするにしても、資料の保存条件を考慮し、建物の仕様は別にしないとイケない。懇話会には、真剣に文化資料館や文化ホールのことを考えておられる熱心な人が集まっているので、アンケート結果と同じような内容の意見交換で終わらないようにしたい。

事務局

アンケートは、文化施設に関心がある人やない人の意見について、懇話会での意見交換の材料としていただきたく、実施した。

どれくらいのお金を用意できるので、どれくらいの面積の建物を建てるという話ではなく、委員の皆様がお持ちのイメージやあるべき姿をお聞きしたい。

A委員

事務局は新資料館構想をどのようにお考えか。

事務局

前回の懇話会で配布しており、新資料館構想を踏まえて意見交換していただきたい。

B委員

新しい文化ホールを早く使用したいが、私は後期高齢者である。完成する頃には使用できないと思っているが、それでもいい。

日本の地方都市はどこに行っても、同じような町ばかりで、亀岡もそのようになってきている。亀岡が他の町と違い、高齢者の居場所があり続け、子どもたちが感性豊かに育っていく町にするには、総合文化施設が必ず必要である。50億円ではできないと思うが、お金がないという理由で整備しないと、将来この町はどうなるか。亀岡市内でも限界集落を通り越し、消滅集落ができてつつある中で、何が必要なのかという視点で、考えていかないとイケない。

亀岡には何もなくて、嫌になれば出ていけばいいと思われる町でいいのか。子どもたち

が発表でき、学べ、体験や鑑賞できる施設があり、高齢者も同じように活動でき、高齢者と子どもたちが一緒に活動し、中間世代の親が見守って手伝うような町。将来の人口減少社会でのまちづくりは、そのようなお金にならないことに、皆が夢中になれるような心の豊かな人たちが暮らす町を目指していかないといけない。文化資料館を建て替える時に、単独で考えるのではなく、立地、機能、規模を考える際は、10年先、20年先のまちづくりをどうするかという考え方が必要である。

私たちの時代に間に合わなくてもいい。子の世代、孫の世代の時代に、私たちが願っている町になってほしい。

F 委員

B委員の意見に感動した。同じ意見を持つ人は一人でないと思う。

亀岡は明智光秀の大河ドラマで盛り上がったが、なぜ明智光秀だけなのか。石田梅岩、角倉了以、田山応挙、出口王仁三郎、山脇東洋、たくさんの偉人が亀岡にいる。江戸時代、明治時代になぜ偉人たちが亀岡に生まれたのか知るためには、ゆかりの町に行かないと分からない。文化資料館で展示するだけではなく、ゆかりの場所と文化資料館を繋ぎ、町と自然を繋ぐ開かれた拠点であることが、機能だと思う。

日本中どこに行っても、文化資料館は似ている。亀岡の文化資料館は、先ほどの偉人たちを見せられていない。学校見学で、文化資料館の資料を見学することは絶対に必要だが、それとは別に平時は亀岡市内には発信せず、日本全国や世界に向けて発信しておけばいい。世界に発信する方が、亀岡の宣伝効果は大きい。1つは子どもたちが学べる資料を展示し、もう1つは世界に向けて、倫理学や芸術、経済の基礎を作った人たちが、亀岡から生まれたことを2か国語で発信することが必要である。

座長

立地等についての意見はあるか。

F 委員

立地はものによって変わる。紙類、有機質なもの、無機質なもので保存の条件が違う。

ギャラリーかめおかは機能的に3割しか使えておらず、もっと有効な活用方法はあると思う。今の文化資料館とギャラリーかめおかを繋ぎ、その間にある城下町をうまく活用できればいい。

A 委員

登録博物館を目指す時、断層の上や急傾斜地は避け、地下の水脈調査等を行うことが望ましいため、簡単に考えられるものではないが、レベルの高い施設が将来的に必要なと思う。

座長

続いて、文化ホールの機能や規模、立地等について、意見はあるか。

G委員

亀岡市文化交流協会の会員にアンケートを実施したところ、音響設備がしっかりしている舞台がほしいという意見が最も多かった。

ガレリアかめおかをよく発表会で使用するが、舞台設備の性能が低く、控室が舞台から遠く、舞台裏のスペースがほとんどない。琴などの楽器を搬入、待機するスペースが狭いので困っている。舞台設備は充実させてほしい。緞帳は、舞台演技をするには不可欠である。

京都府立文化芸術会館は、舞台裏のスペースが広く舞台の数倍はある。大阪府吹田市のメイシアターには客席の後ろに小部屋があり、小さな子どもを遊ばすことができる。舞台の音はスピーカーを通して聞こえるが、子どもの声は外に漏れず、他の観客に迷惑をかけない。子育て中の若い人も舞台芸術を楽しめるこのような機能があればいいと思う。

H委員

アンケートの質問の3番、「ホール機能を有していた旧亀岡会館は平成27年に閉館しましたが、あなたはどのような影響を受けましたか」で、58%の人は影響がなかったという結果に驚いた。亀岡市吹奏楽団で毎年1回定期演奏会を開催していたが、市民の感覚を感じ、もっと文化活動を頑張っていかなければいけないと思った。

機能としては、設備が整ったホールが必要であると考え。しっかりした音響設備と舞台、ゆったりした客席がほしい。

アンケートの結果では1,000人以上の収容人数を希望されている人が最も多いが、亀岡では800～1,000人規模がいいと思う。豊能町のユーベルホールは500人規模だが、小さくても十分活用されている。

市内中学校5校に吹奏楽部があり、大成中学校は吹奏楽コンクールで金賞を取った。設備の整った市内のホールで練習してもらい、本番の大きな施設に備えることも必要だと思う。早い整備を要望する。

F委員

音響は特に重要で、特にプロにとってはしっかりした音響設備が必要である。

採算を取るために800～1,000人規模のホールを整備するならば、音響設備がしっかりしていないと、有名な人を呼べず客席が埋まらない。京都芸術大学の文化ホールの収容人数は約840人だが、客席を埋めるには大変な努力が必要。

そう考えると、音響設備は抜群に良くしたうえで、小規模でアットホームなコンサートや発表会を開催できる400～500人の規模でいいと思う。ガレリアかめおかに増設できるかもしれない。

練習場所が必要で、発表場所と一体化していないといけない。舞台の横で稽古できるように、宿泊施設を整備できるとよい。

I 委員

この懇話会に参加されている委員の多くは、もともと文化資料館と文化ホールを整備してほしい考えを持っておられる。私は中立の立場で話をするが、自治会連合会の役員幹事会9名でアンケートの案文を見て議論したところ、3分の1が積極派、3分2が慎重派であった。財政負担がかかるので、ブレーキをかけることも必要である。大きな施設は建設費や維持管理費がかかるので、採算が合うかも考えないといけない。

自治会の仕事でも、新たな事業要望の時、資金調達をどうするか決断する時が最も難しい。自治会員が減少傾向にある一方で、各種団体の要請は多い。

地元の文化振興会で大井音頭の浴衣を作ることとなっていたが、途中から自治会で作ってほしいと要望され、作るようになった。京都府の補助金と自治会版ふるさと納税を活用し、残りは企業に寄付をお願いした。このように自らの団体で資金調達の汗をかいてほしい。

文化資料館の立地は、別院中学校が空く予定なので活用できないか。別院は元々天皇家、御所の領地で、石田梅岩の生誕地でもある。また、宮前町にある教育研究所を活用できないか。新たに土地を購入するには費用がかかるので、基本的に既存の市の施設でできないか考えるべき。

文化ホールは、ガレリアかめおかのコンベンションホールと響ホールを改修して、舞台やバックヤード、音響設備等を整備してはどうか。

皆さんの要望事項を全て受け入れると、整備費と維持管理費がとてつもなく大きな金額になると思う。今はふるさと納税の収入が20数億円あるが、長く続くわけではない。

物事を考える際には、内容、資金、場所をどうするかを一体で考えるべきである。少子高齢化対策や子どもたちのこと、災害対策や河川等の改修のための資金が必要で、人の命を守ることが、行政の一番の仕事であることも踏まえて判断してもらいたい。

G 委員

第1回目の懇話会の際は、夢や理想を語ろうと思って来たが、亀岡市の財政状況の説明を受け、出鼻をくじかれたように感じた。夢や理想を100%実現すると莫大なお金がかかるのは分かるが、文化の拠点となるホールは必要不可欠なので、いろんな選択肢の中から絞っていくことになるだろう。

霧はマイナスのイメージで思っていたが、かめおか霧の芸術祭を通じて、亀岡を象徴

するものとして、生かしていけないかと考えるようになった。例えば「かめおか霧の芸術会館」を整備し、亀岡の文化の大きな流れの中に、組み込まれていけばいいと思う。常時、かめおか霧の芸術祭のようなことができ、次の世代に亀岡の文化を引き継いでいけることを願っている。

大きな箱があれば素晴らしいことができるのではなく、亀岡の至る所に小さな文化の種が蒔かれ、芽を出して花を咲かせることが、亀岡市民の文化の意識や喜びに繋がると思う。文化交流協会も小さな演奏会や発表会を続け、根を絶やさないう活動していきたい。

規模は、大きなものは時代にそぐわない。講演会やシンポジウムのような集まりは、1,000人収容可能なギャラリーのコンベンションホールを利用して、文化ホールは舞台鑑賞に特化した400～500人の規模が妥当だと思う。

収容人数の規模よりも充実した舞台機能を備えている文化ホールを望む。

B 委員

小さい文化の集合体で集まれる、総合文化施設が必要である。亀岡で歌手を呼び採算を取ることを考えるなら、1,000人を超す規模が必要であるが、あまり大きな規模でなく、音響や照明設備がしっかりしていればいいと思う。大きな公演は、京都市内や滋賀県の既存の施設で開催すればいいと思う。

しかし、この町の子どもたちに、素晴らしい芸術家の舞台を見てもらうようにするには、500人規模でいいのか考えないといけない。

I委員の意見は、自治会連合会の立場からの発言であり、責任があると承知している。将来のまちづくりを考えた時に、文化施設が必要であるとの考えの人もいる。アンケートの実施は初めてだったと思うが、いくつかの構想を市民に問いかけて、意見を聞いてもいいのではないか。

5年間市民の意見を聞き、10年間で資金を集めると、この規模の施設ができるなどといった、大まかなロードマップができればいいと思う。アンケートの結果でも、長期的に財政を考えて整備するべきとの意見が強く、私もそう思う。

F 委員

1か所に1万人を集めることは大変だが、10人、100人、300人の会場が各地にあり、合計で1万人を集めることはできる。既存の建物を改修し、音響設備を整備することも1つの方法だと思う。

別院中学校を見たことはないが、別院という地域は魅力的で、そこで吹奏楽の合宿があり、発表会があると行ってみたい。1週間のワークショップが行われ、そこで海外の芸術家が作ったものを展示してもよい。既存の建物の中にそういう役割を割り振っていくことも、1つの方法だと思う。

昨年度、文化交流協会が城下町地区のお寺4か所で行われた演奏会は、非常に良かった。音響が良いかは分からないが、観客席と距離も近く響き合っていた。それぞれのアクセスが徒歩圏内であれば、1日で十分楽しめる。一か所に大人数で集まる時代は終わり、亀岡にはふさわしくない。

規模は、既存の施設と、どのような発表が必要かを整理しないといけない。

座長

1つの場所に、どれくらいの規模のものを作るというイメージになりがちだが、町全体に色々なものが広がっていき、その中に1つ拠点になるものがあるイメージだと思う。立地等について意見を。

D委員

立地条件は、文化資料館と美術館、文化ホールを兼ね合わせた近隣施設か複合施設の方が、駐車場を単独で整備するより効率がいい。人口9万人弱の中で、ふさわしいものが必要だと思う。複合施設として、文化財を考慮し気温と湿度に影響されない場所がいい。アンケートの意見でも多かった、アクセスがよく、利便性のいい場所として、スタジアム周辺もいいと思う。地域の小さな発表会で文化を育てていくことが重要で、市内と近隣の住民にお越しいただける施設が必要である。

資金集めは行政の力が必要で、ふるさと納税、クラウドファンディング、企業協賛、寄付金等、様々な手法がある。

C委員

亀岡市の人口は、今後どうなるか分からない。整備すると30～40年間で借金を返済していくことになるので、30～40年後の人口を前提にした規模を考えるべき。I委員の発言にあった、ギャラリーかめおかを改装して機能を持たせることは、魅力的だと思う。

B委員

立地についての1つのアイデアで、ギャラリーかめおかのバラ園を現在の文化資料館に移動させ、文化資料館と文化ホールの複合施設を、バラ園の場所に持って行くのはどうか。ただし、その場合は、駐車場を今よりも広げることも考えるべきである。

F委員

府立京都スタジアムの中で、何かできないのか。フィールドは1年間のうち、約300日間は空いている。スポーツ施設の中に、文化施設があるのもいいのではないか。

J 委員

立地に関して、本音では亀岡駅南側に整備してほしい。亀岡駅の北側は府立京都スタジアムが完成し発展しつつあるが、南側も均衡して発展してほしい。

亀岡市には特徴ある素晴らしい文化が多くあるが、京都市にはより素晴らしい文化が多くあり、観光客は亀岡市より京都市に行ってしまう。

文化は、子どもたちの教育にとっても大切であり、憩いの場所等の複合的な施設であることが必要だと思う。かめおか霧の芸術祭のコンセプトは、歴史、文化、技術、経済の全てが入っていると思う。かめおか霧の芸術祭と共同して、文化施設を考えていくべき。

5 その他

第3回懇話会の開催予定日時等について事務連絡（事務局）

6 閉会

以上